



園だより あそびはまなび

ふるさとホーム渋沢を訪問しました



以前から交流を続けている高齢者介護施設「ふるさとホーム」へ今年も伺わせていただいています。建物内に入らせていただくのは、令和元年以来。子どもたちの顔を見ただけで涙ぐむ利用者さんもいられます。手話や体操、手遊びなどを一緒にしたり、見ていただいたりし、子ども達からは「楽しかった」「また行きたい」「みんながいてくれて嬉しかった」などという声が聞かれます。

子ども達に会うことで利用者さんは元気が出て笑顔が増え、子ども達はまるごと自分たちの存在を包み込んでくれる喜び、やさしさを感じることが出来る素敵な時間となっています。今後も継続的に交流をしていきます。



運動会 ～ひとひといが輝いていました～



10月に行った運動会。全力で取り組む姿に胸が熱くなりましたが、2学期に入ってから「運動会」という目的に向かって、日々成長していく子どもたちの姿に、大人には想像できないくらいの伸びしろがあるということを実感してきました。

運動会後に保護者の方からいただいた感想には、「あきらめずに最後まで頑張っていた」、「達成感、自信、団結力を感じた」、「子どもたちが自分なりに考えていた」などの言葉が並んでいて、保護者の方に認めていただけることで、ますます自己肯定感・自己有能感が育っていくはず！と嬉しくなりました。

また運動会では中学生が様々なお手伝いをしてくれました。地域の若い力が着実に育っていることを心強く感じます。子どもたちも親しみを持ち、「また幼稚園に来てね」とまた会えるのを楽しみにしています。

年少児 ～「楽しい」が原動力～

「自分が楽しむ」ことがまず一番ですが、皆で一体感を感じながら一緒に楽しむ姿から、友達とのつながりが育ってきていることを感じました。また年長児がしているのを見て、自分もやってみたくとチャレンジする姿も見られ、「頑張ればできる」という気持ちが育ってきていることを感じます。



年長児 ～友達と心をひとつに～

初めは負けると悔しさのあまり、泣いたり、「もうやらない」と言う子もいましたが、繰り返し行う中で、負けてもすぐに前を向き、次の勝負に向かって作戦を考えたり、自分なりに考えたことを試したりする姿が見られました。あきらめない、自分たちはできるという気持ち、素晴らしかったですね。そして、自分が頑張るだけでなく友達を応援する姿、友達ができるようになったことを自分のことのように喜ぶ姿などに心の育ちを感じました。



1年生とスポーツ鬼ごっこ ～小学生との交流を楽しんでいます～

小学校の広い体育館を使って1年生とスポーツ鬼ごっこをしました。園児も小学生もスポーツ鬼ごっこは初体験。少し難しいルールもありましたが、動きながらルールを理解していきました。

年少組には自分の役割がわかるよう、最初に講師の飯田先生から「幼稚園の子は宝を取りに行こう」という声かけがありましたが、年長組には自分達で考えながら遊べるように、あえて何も言わずにスタート。

1ゲーム終わると1年生が中心になって作戦会議をしました。どうしたら勝てるか、攻めと守りの役割分担はどうするか、膝をつき合わせて話をします。頼りになる1年生に憧れの気持ちをもつ子どもが多かったようです。鬼ごっこの面白さだけでなく、交流のよさが実感できるひと時となりました。



いろいろな子が活躍できるのが鬼ごっこのよさ。一瞬の隙を縫って取りに行く子もいれば、スピード勝負の子も。小学生のサポートでトレジャー(宝物)をゲットする園児もいましたよ。